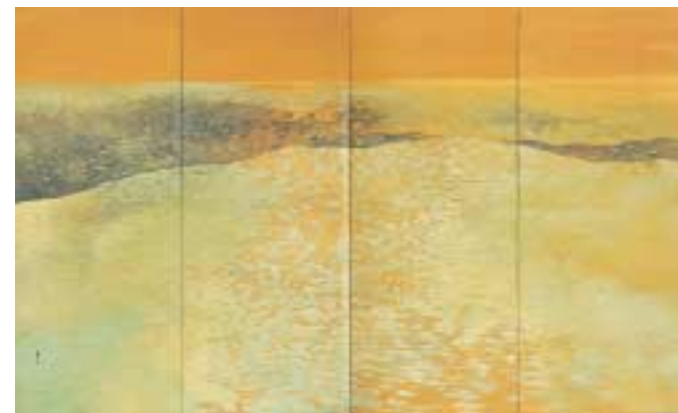


欧米で人気高まる、 京都の忘れられた日本画家・都路華香

本学の辻筆雄先生のおじいさん

京都の忘れられた日本画家・都路華香の作品展が昨年
から今年にかけて京都、東京の国立近代美術館と笠岡市立竹
喬美術館で相次いで開催されました。近年、欧米諸国で華香
人気が高まっているのを受け、華香の画業を再評価するため
75年ぶりの作品展となったそうです。

じつは華香は本学メディア・コンテンツ学部の辻筆雄
教授の祖父にあたります。そのご縁で華香のユニークな作品
の一端を紹介します。



緑波 明治44(1911)年頃

禅と俳句に親しみ、注文画はお断り

一方で華香は、禅と俳句に動かし、時の流れや評判に超然としたと
ころがあったそうです。注文に応じて絵を描くのは「さまざまな条件に縛
られて自分の思うように描けない」と経済的に苦しくなるのは承知で、
ある時期から依頼画を断り続けました。文展(いまの日展)で最高賞の特選
になった「壺輪」について、日本画家の鍋木清方や洋画家の石井柏亭ら
は「構図の新しさもあるが、こつこつとした細工画の多い文展で、こんな
無造作な描線を観るのが愉快である」「他の作家と変わった例の超然た
る趣が画中の老翁に現れている」などと評
しており、華香の人柄がうかがえます。

のちに、京都市立絵画専門学校校長兼美術
工芸学校長となりました。いまの京都市立
芸術大学の初代学長というわけですね。

辻先生は生前の華香を知りませんが、こ
どものころ、家族から噂話は聞いたそう
です。「朝、まだ真っ暗なうちから庭にでて、
だんだん明るくなるにしたがって庭の草花
や木の葉や幹が、どのあたりからどんなふう
に見えるのか、それをこまかく観察
して写生帳に写していたといいます。自然
の外見を忠実に写すだけでなく、微妙な明
度差みたいなものまで注意していたよう
ですね。それが新しい表現の工夫につなが
ったのでしょうか」と話されています。



良夜 明治45(1912)年頃

得意のテーマは「波」

華香の得意のテーマは「波」でした。いろいろな波の作品がありま
す。<緑波>と<波千鳥>はともに米国のウエイコレクション所蔵で
すが、シアトル美術館の森岡三千代・客員学芸員は「同じ主題を持ち、
同じ時期に描かれたこの2点の作品が完全に対照的な様式を示してい
るという事実は、華香が驚くべき独創性と創造性を有する画家である
ことの証である」とし、<良夜>については「実景に忠実に描写する
ことよりもこの作品で華香が目指したのは墨によるダイナミックな表
現であり、墨の濃淡と筆遣いを最大限に活用して(略)。技術的な熟練
を絵画のもっとも大切な特徴とみなす京都画壇の限界を乗り越えよう
とする華香の決心は彼を波の研究へと駆り立てた。華香の主観主義的
な様式は規範から逸脱したものだった。」と書いています。こうした
ことから華香はしだいに主流からはずれ、正当に評価されないまま、
忘れられていったというのです。



壺輪 大正5(1916)年



波千鳥 明治44(1911)年頃

東京 新宿キャンパス特集



東京 新宿キャンパス



TOKYO SHINJYUKU CAMPUS



シリーズ
「授業アラカルト」
の連載始めます

初回はゲームの
吉岡章夫先生

「東京メディア・コンテンツ学部」
デビューして半年

宝塚造形芸術大学・新宿キャンパスの
「東京メディア・コンテンツ学部」が
スタートして半年あまりがたちました。
前期の授業ぶりはどうだったのでしょうか。
本号から教員のみなさんにシリーズで「私
の授業のセールスポイント、授業の手
ごたえや、授業と学生の進路のかかり」
などを話していただきます。学生側の
反応や感想もあわせて紹介し、教室の
雰囲気をお伝えします。
最初に登場してもらうのは、<コンピ
ュータグラフィックスI>を担当され
ている吉岡章夫講師です。見るからに
新進気鋭、やる気満々の若い教員です。

東京新宿キャンパスは交通至便

- JR「新宿」駅から徒歩約4分
- 西武「新宿」駅から徒歩約3分
- 都営大江戸線「新宿西口」駅から徒歩約2分
- 小田急「新宿」駅から徒歩約5分
- 地下鉄丸ノ内線「新宿」駅から徒歩約4分
- 都営新宿線「新宿」駅から徒歩約5分

東京での就職活動・就職斡旋の拠点。

宝塚キャンパスの学生も東京で就職活動を行
っている企業へ持参する自分のポートフォ
リオ(作品集)の手直しなどは新宿キャンパスの
施設を使って下さい。

梅本先生に聞く



梅本 守 教授

多彩なカリキュラムー 絵画、クレイアート、コラージュ、箱庭…心理テスト、心理療法

芸術療法とひとくちにいいますが、取り上げられるジャンルは多彩なようですね。

そうです。絵画、コラージュ、箱庭、陶芸、クレイアート、音楽、詩歌、俳句、連句、物語、ダンス、心理劇…。ざっと見渡してもこれだけあります。このなかから本学の得意な分野を中心にカリキュラムを今組みつつあります。もちろん、ここにあげたジャンルのほか、というより、これらのジャンルを統括・分析・調整する基本となるのが各種「心理療法」と「心理テスト」です。それぞれの専門家をお願いして充実した授業を実現したいものです。

心の傷をもっている人は子どもから老人までじつに多いと思われま。現代病といってもいいでしょうが、おもな療法を簡単に説明してください。

カラオケで心を緩める、解き放つ感じで

その前にどの療法にも共通する前提条件をお話しておきましょう。いろいろなストレスによって生じた心の傷（トラウマ）を癒すには、まず心のこぼれ、緊張をほぐし、緩めることがもっとも大切です。たとえとして、カラオケを想像してください。自由に、自分流に声を張り上げることで、心はすっきりし、ストレスが発散します。歌い終わると満足感があります。その際、歌の上手い、へたは関係なく、仲間がそばにいてくれて、聴いてくれています。カラオケルームの中では自由に振る舞える、保護されている、自分を受け入れてくれるという安心感、信頼関係がありますね。これが重要な条件です。そのカラオケ仲間がまさにカウンセラーの役割なのです。ですから、うまい、へたの批評はしません。じっと見守っている（聴いている）ことが大事なのです。

カラオケの例はわかりやすいですね。では、本学のアートセラピーの中核となる絵画療法からおねがいします。

フロイト、ユングが先駆者ー本学は絵画療法を中心に

絵画療法の歴史的なことをいいますと、絵画や彫刻の作品を分析し、作者の心、無意識の領域を解釈したのが精神分析学の創始者フロイトです。それをさらにすすめて、描画のなかに神経症の発病や症状、

その治療へのヒントが多く隠されているとし、一般の患者たちの治療に適用しはじめたのはユングです。ふたりの著名な先駆者のもとにこの療法は発達してきました。

絵画療法の4つのパワー

現在、描画のもつ治療力はつぎのように説明されています。

1. 描くことそのものに治療力があります。患者が、描く対象のなかから素材を取捨選択し、再構成するプロセスが自信の回復につながるわけです。
2. 絵を描くということは、自分の作品をつくりだす、つまり創造性を生かす行為です。これは一種の達成感、満足感を生むのです。カタルシス効果といってよいでしょう。内面のエネルギーを活動させ、治療をはやめます。
3. カウンセラーの見守りの中で安心して自分の内面世界を表現できます。本人とカウンセラーの間の信頼関係、その雰囲気をもっとも大事で、そのような中で自分の内面を表現する、それをカウンセラーが受け入れてくれる、そういう相互関係がいわゆる治療効果をもたらしてくれるのです。治療的共感の場、といえるでしょうか。
4. 出来上がった作品・絵画は、本人とカウンセラーの間に、第3の中間的な対象物としてデビューするわけです。これはある意味でタイトな本人とカウンセラーのなかにあって、一種の緩衝材となります。両者にゆとりがうまれます。また、作品を囲んでお互いに自由に気楽に感想を言い合える空気が醸成されると、これはすばらしいですね。

「天井面彩色復元」 池尻 篤志
美術史・美術理論コース 3回生「原寸模写 クールペ 傷ついた男」 下園 真吾
美術史・美術理論コース 3回生

みなさん、絵はすんなりと描いてくれるのですか？

いえ、これがひと苦労です。カウンセラーとクライアント（患者）の間に信頼関係がないとなかなか描いてくれません。絵を描きはじめるように動機づけをどうするか、これもカウンセラーの能力のひとつです。もうひとつ、何の絵を描くか、課題の与え方です。一般には無意識にあらがってくるイメージを自由に描いてもらうのが中心です。そのほうが本人もわからなかった内面の心の状態に気付く表現が出てくるでしょうから。ただ、場合によってはこちらから題材を与える方法もあってよいでしょう。家族関係がうまくいっていないとき、さりげなく、「なにかお父さんについて思い浮かぶことを描いてみよう」とか。ただ、自画像とか風景画がよく題材になります。描く側もつつきやすく親しみやすいでしょう。

箱庭とか、コラージュ療法とよく聞きますが、

「箱庭」、「コラージュ」ー2つの療法の共通点、相違点

箱庭療法はカルフという人が創案したもので、砂が入れてある平べったい箱に、人や動物、池や山、川などのミニチュアを配列して

もらいます。カルフは「砂遊び」と呼んだのですが、わが国には箱庭という子供の遊びがあり、紹介者の河合隼雄先生が箱庭療法と名づけました。ミニチュアの構成の仕方、表現ぶりを見て、患者の性格や内面、症状の有無をさぐります。コラージュの本来の意味は「糊で貼る」で、新聞、雑誌類から写真や絵などを切り抜き、台紙に貼って作品化します。ピカソなどのキュビズムを通して発見された方法です。箱庭と同じように、そのなげない配列を通してその人自身が表現されます。実際には、雑誌類から好きな写真などを自由に切り抜き、自由に貼り付ける「マガジンピックチャー」方式と、持ち運びできる箱庭のイメージで、箱に切り抜いた写真類を数十枚準備し、その中から選択して台紙に貼り付ける「コラージュボックス」方式の二つが利用されています。

箱庭、コラージュ療法ともに、絵画療法と同様に制作すること自体が治療に向かいます。コラージュの場合、箱庭とちがって、材料の写真や絵、イラストなどはプロの作家の作品を借用しているわけで、できあがった作品もそれなりに一定の美的感覚をもつことが多いのです。そのため箱庭に比べて自分の満足感を容易に得られるという利点があります。

一方で、箱庭には切り抜き、貼り付けなどという手間がいらす、表現の苦手な人もつつきやすいというメリットがあります。

病院や一般的な施設のほか、ターミナルケアなどでも芸術療法は今後実践されていくのでしょうか。

子供から老人、ターミナルケアまでカバーするアートセラピー

終末期医療の現場では疼痛対策など身体面の治療はすすんでいますが、心理面、精神療法面ではまだ体系化されていません。しかし、近い将来、社会から要請されるのは時代の趨勢でしょう。これからの可能性も含めてターミナルケアにおける芸術療法の役割を考えてみましょう。

1. 趣味・楽しみとしての機能。
閉じこめられた生活を余儀なくされている病人にとってのづくり、芸術することの楽しみは健康時より大きい。
2. 情緒的不安、悲しみ、混乱を安定させ、慰める機能。
終末期にありがちなこんな心の状態を鎮める。
3. 尊厳を回復させる機能。
患者は万事、受身で、個人の価値と尊厳を失われがちだ。しかし、芸術作品の制作中や、完成したときは、能動的な気分になり、尊厳がよみがえる。

自己紹介と受験生のみなさんへのアピール

わたしの専門分野は生理学的心理学といって、心と脳の働きを調べることです。具体的には、「不安」が脳のどの部位で発生し、それが神経情報として、どのように脳内に伝わっていくか、そして、その帰結として、どのような日常の行動、あるいは病気の症状になるかということでした。もちろん、脳をいじるため、動物実験でそのことを確かめるわけです。

文学部の大学院生として、許しを得て、東京大学医学部脳研究所で実験をし、その後製薬会社の研究所で研究を続けました。

医学博士の学位を取り、カリフォルニア工科大学生物学部で数年間の研究生活を送りました。そのとき、カリフォルニア大学ロサンゼルス分校(UCLA)医学部精神科教室で行われた、新薬開発のための治験に参加し、躁鬱病患者を始めとしてその他の心の病を患った3,000人の訴えを聞きました。

「わたしは脳と心理学と精神疾患について人並みに知っている」。これがわが校でア

4. 人生の意味を考える機能。
創作を通じて前向きな精神状態になり、病気を超えて、生と死の問題に積極的に取り組む心の働きが生まれる。
5. この世への贈物・記念品づくりとしての機能。
やがて死にゆく存在として自らの記念の品、心の結晶を残しておきたいという気持ちはだれにもある。それは自分自身の救いでもあるはずですね。

アートセラピーは、こども、若者、中年世代、老人、そしてターミナルケアまでカバーしているわけですね。これからますます医療福祉のウエイトが大きくなるとおもわれます。卒業後の進路も心強いというわけですね。卒業生には何か資格が取得できるのですか？

「芸術療法士」、「臨床美術士」の資格

日本芸術療法学会が定める条件：現場経験年数と学問的業績をクリアすると「芸術療法士」の資格が与えられます。これを目指します。その他に、民間NPO団体の芸術研究所が認定する「臨床美術士」という資格もあります。

いずれにせよ、人の話を聞き、相談に乗るという職業なので、卒業してすぐにクリニックを開業するというわけにはいきません。経験と実績を積んで資格を得ることを期待します。

むろん、本学のアートセラピー・コースは美術学科本来の洋画、日本画、彫刻、模写、美術理論、色彩学、コンピュータペインティングなども学ぶことができます。ですから私は本コースのキャッチフレーズは「得意技をふたつ持とう」にしてはどうかと思うのです。セラピストとして働きながら、芸術の道に進むことも可能です。



梅本 守 教授

アートセラピーコースを設ける計画に参画した理由の1つでした。理由はほかにもありました。ある学生から「クリニックでアルバイトをしている」という話を聞きました。アートセラピーの1つの技法は「描画の指導」です。カウンセラーを助けるためにアルバイトをしていたわけです。画学生とはいえ、絵を描くことにかけては専門家です。その指導が効果的なのは言うまでもありません。トラウマを抱えている人が、絵の描き方を指導され、見る間に上達し、それに熱中する。「なんであんなことで悩んでいたのだろう」という心境になったらいいものです。

たいがいのカウンセラーは絵を描くことがうまくありません。それで画学生をアルバイトに雇うのです。心理療法に詳しく、絵も上手く描ける人がいれば、鬼に金棒です。

これが本校にアートセラピーコースを設ける一番の理由なのです。